



学校だより

No. 1

東京都立多摩科学技術高等学校

平成30年 5月 31日

学校だよりでは、本校での行事や情報を掲載していく予定です。本校の教育活動について皆様に知っていただけるよう、よりよい情報をお届けしたいと考えています。

校長先生より挨拶

「進学指導推進校として」

校長 白鳥 靖

着任3年目となりました校長の白鳥靖です。保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。今年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度はSSH第2期の2年目であるとともに、進学指導推進校の1年目でもあります。進学指導推進校とは、「高い将来の目標に向かって自ら進路選択ができ、意欲的に勉学に取り組む生徒の進学希望をかなえることのできる学校であり、東京都教育委員会が、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの一環として指定する、進学対策に組織的、計画的に取り組む都立高校」です。普通科以外の高校としては、進学指導特別推進校である国際高校に次ぐ指定となります。本校の教育目標にある「進路実現に必要な学力を確実に育てる」を実現するための取り組みの一つとして、この指定を活用していきたいと思っております。

夏休み、みなさんはどのように過ごすつもりだろうか？部活を一生懸命やろうか、一人でサイクリング旅行を計画しようか。3年生は、受験勉強に集中しなければと考えているだろう。中には、遊ぶ計画ばかりを考えている人もいるかも知れない。しかし、目標もなく何をしようか考えている人も多いのではないかな。

そこで、夏休みの宿題となるわけだが、英語や数学などの教科以外に次の宿題を出したい。それは、「無駄になることをたくさんやること」である。（3年生は、大学生生活に置き換えてほしい）

普段の学校生活は忙しすぎ、自分のペースが作れないうちに終わってしまう感じである。全て自由になるこの夏休み、是非、無駄なことに熱中して欲しい。

将来役立つものがあるとしたら、子供の頃や学生時代のオタク体験だろう。例えば、日本一の人気を誇るユーチューバーのHIKAKINさんは高校生の時にボイス・パーカッションにハマり、放課後、周りがバスケットボールなどで遊ぶ中、一人、MDプレイヤーの前で録音する日々を送っていたという。HIKAKINさんの卓越したボイス・パーカッションの技術も、高校時代の「没頭」する日々が生み出したものなのだ。

多くの人は、好きになってから没頭するものと思いがちだが、現実とは違う。他のことを何もかも忘れて没頭する。この境地を経て始めて「好き」の感情が芽生えてくるのだ。「最初から好きだから〇〇の仕事に没頭する」のではない。「〇〇の仕事に没頭したから、その仕事が好きになる」のだ。「没頭」さえしてしまえば、あとは知らぬ間に好きになっていく。（一部、「10年後の仕事図鑑」落合陽一・堀江貴文著 より抜粋）

とにかく、最近の高校生は役に立つかどうかを優先しすぎる。若さの特権は「平気で無駄ができる」ことなのではないか。

若い人間が時としていい仕事ができるのは、未熟だからである。若い方が、頭が柔らかいからだという説もある。しかし、知識や技術の差で決まるなら、経験を積んだ年寄りが何でもできるはずである。多分、これまでの技術や知識でできるものなら、すでに誰かがやっているのではないかな。壁を突破するには、ある種今までにない技術や知識が必要になるのではないかな。特に、違った発想、アイデアはそういえる。年寄りには、今まで培った技術や知識に固執しすぎる。

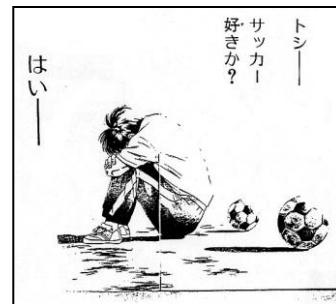
優等生の落とし穴もここにある。「やり方を完璧に覚える」ことを勉強だと思っている人が少なくない。問題を発展させたり、他のアプローチを考えるなど、効率至上主義から、無駄の何ものでもないとする。他の解き方などには、目を向けようとしなない。

世の中、変化が激しい。コンピューターの世界などでは、5年も経てば使い古しの知識技術となる。学生時代に習ったことだけでは、さっぱり現実にそぐわない時代になっているのだから、身につけたものにこだわっても仕方がない。

とまあ、考えていくと、若い人がいい仕事をするのは、無駄を恐れないからだという結論に行き着く。

ここに新しい問題があるとしよう。当然、今までの解き方は通用しない。知識や技術のない若い人はたいていすつとんきょうなやり方で取り組む。ほとんどは的はずれだから、努力が無駄になる。落ち込む。しかし、若いから気を取り直して、再びチャレンジする。そのうちに万に一つ正解に当たる。無駄をしても新しい努力ができるのが若さなのだ。

気楽に努力できるところが若さの良さである。学生時代に無駄の貯金をしておくことが将来の飛躍のバネになる。この夏休み、大いに無駄に励み、〇〇オタクになってくれ。



生徒会より

こんにちは。1年生はもうそろそろ学校に慣れたころでしょうか。PC室、ゼミ室等の場所も、見分けがつくようになっているかもしれませんね。

「科学技術科」であるタマカギでは、他の多くの高校では味わえない科学にどっぷりと浸かる日々を送ることが出来ます。授業、部活の他にも、文化祭や講演会などがあり、本当に科学漬けです。タマカギでの生活を充実したものにするには、自ら積極的に機会を活かしていくと良いでしょう。タマカギには独特なキャラや専門知識をもつ、先生や生徒が沢山います。お互いに良い刺激を与えながら、様々なことを学びあえる楽しみをかみしめて下さい。われわれ生徒会役員も応援しています。

各学年の雰囲気・遠足の感想

○第一学年 牧戸 一益先生

お台場エリアに行ってきました。ウォーターフロントに開かれたお台場エリアは、東京湾の海風を感じながら、さまざまな商業施設でエンターテインメント、グルメ、ショッピングを楽しむことのできるエリアです。午前中のグループ別自由行動では、事前にグループごとに計画し、仲間と協力して様々な体験を通じて親睦を深めることができました。午後は毛利衛さんが館長をされている日本科学未来科学館を学年全員で見学しました。これから3年間、科学を追求していく生徒たちには大変興味深くそして魅力ある施設でした。

入学後初めての大きな行事でしたが、天気にも恵まれ、事故もなく、実り多い行事となりました。

○第二学年 遠足係代表

最寄駅から電車を乗りつぎ京急線を降りたら、そこは羽田空港国内線第二ターミナルでした。当初の予定では、横浜で2時間の空白時間があったのですが、結果としてその予定は崩れることとなりました。私の入っていた班は、はじめに三菱みなとみらい技術館へと行きました。私は係で、三菱みなとみらい技術館のことを調べていましたが、子供向けのものが多くて見るものが少ないとポスターに書いた2階でなぜか数十分の時間を過ごしていました。また、1階では中学校の頃の同級生と遭遇しました。その後、日本丸メモリアルパークに行きました。そこで帆船を操作するゲームを何回かやっていたら、午後1時になっていました。1時には昼食が終わっている予定だったので、すぐに昼食を食べるために移動しました。ぶかりさん橋についた後、遠方に見える船の近くに行くため走ったところ、船があった赤レンガ倉庫まで行ってしまいました。最終的にぶかりさん橋についたのは、集合時間約15分前でした。予定は乱れたけれども、楽しく過ごせたと思います。

○第三学年 高橋 大輔先生

3学年は東京ディズニーシーに行ってきました。この遠足を通して「新クラスでの親睦を図ってもらいたい!」「班別行動を通じて情報収集力・企画立案力を身につけ、物事に積極的に取り組む姿勢を持ってほしい!」「科学技術の視点から建築物や土地の高低差の技法・音響効果・植物の管理などを見てもらいたい!」という思いのもと実施しました。当日は天候にも恵まれ過ごしやすい気温の中で学習をすることができました。ディズニーシーは科学技術の視点から見ると様々な工夫がされています。生徒のみなさんは1つでも知ることができましたか?また、新クラスでの親睦は図れましたか?クラス全員で力を合わせて取り組む行事は残り体育祭のみとなりました。「団結力のある学年」を目指して、体育祭も全力で取り組んでいきましょう!

今年度赴任した先生

よろしくお願ひします。

- ・稲本 聡子（国 語）
- ・鈴木 里絵（家 庭）
- ・高橋 直也（科学技術）
- ・石井 伸（科学技術）
- ・小林江梨加（国 語）
- ・齊藤 高一（体 育）
- ・後藤 正憲（科学技術）
- ・長田 恭輔（公 民）
- ・矢島 哲也（英 語）
- ・藤本 暁子（科学技術）
- ・菅 祐亮（数 学）
- ・蛇子 昭治（英 語）
- ・千葉 雅子（科学技術）
- ・夏原 智史（数 学）
- ・長谷川 登（体 育）
- ・久地楽 小百合（科学技術）

(7月未までの行事予定)

6月

- 1日（金）体育祭
- 5日（火）体育祭予備日
- 6日（火）・7日（水）模試（3年）
- 11日（月）～16日（土）授業公開
- 13日（水）生徒会役員選挙
- 14日（木）進路講演会（3年）
- 16日（土）保護者会（2年）
SSH 理系女子生徒による研究発表交流会

7月

- 2日（月）～5日（木）1学期期末考査
- 9日（月）開校記念日
- 13日（金）模試（1～3年）
- 14日（土）～15日（日）宿泊防災訓練（1年）
- 19日（木）アドバイザー授業（1・2年）
- 20日（木）終業式
大掃除
薬物乱用防止教室
- 21日（金）夏季休業日開始
読書月間開始
保護者会（3年）

